アッヴィ、世界の学校やコミュニティの改善のため、一週間の活動に従業員3,100名を動員

June 22, 2015

アッヴィ、世界の学校やコミュニティの改善のため、一週間の活動に従業員3,100名を動員

- **ボランティア週間Week of Possibilitiesにて、39カ国で55を超える実践的な活動プロジェクトを実施**
- **従業員のボランティア活動時間は14,000時間超**
- **プロジェクトはすべて、十分な教育が行き届いていない人々への還元を目的とし、特に学校教育において科学知識と識字能力の格差を縮めることに注力**
- **日本では、アッヴィ合同会社の従業員ボランティア延べ48名が児童養護施設を訪問し、61人の子どもたちと「アッヴィ科学教室」を実施**

バイオ医薬品大手のアッヴィ（本社：米国イリノイ州ノースシカゴ）は、6月8日から第2回年次ボランティア週間Week of Possibilitiesを実施しました。このプログラムでは、世界各国のアッヴィ従業員3,100名が、自宅や職場近くの学校やコミュニティで14,000時間を超えるボランティア活動を実施し、これら学校やコミュニティの向上を支援しました。

2015年は39カ国超がプログラムに参加し、55を超える実践的な活動プロジェクトが行われました。これらのプロジェクトでは、十分な教育が行き届いていない人々の生活向上を目指して、教育を改革することに重点を置いています。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「多くのコミュニティにおいて、子供たちの科学的知識と識字能力に顕著な学力差[1] が生じています。アッヴィはこのような格差の縮小を促し、現在教育を受けている子供たちすべてに未来の科学者になる可能性を与えるための取り組みを行っています。」

アッヴィは2014年にWeek of Possibilitiesを地域限定の取組みとして開始しました。この年は、イリノイ州ノースシカゴおよびマサチューセッツ州ウースターにて従業員が6,800時間を超えるボランティア活動を実施し、学校やその他の学習施設のリノベーションや生徒用教材の提供を行いました。今年はプロジェクトの地域を拡大し、オーストラリア、ブラジル、中国、イタリア、日本、トルコ、ロシアおよびその他17カ国で実施されました。

アッヴィおよびアッヴィ財団は、2015年のWeek of Possibilitiesで行われる各プロジェクトに130万ドルを超える予算を当てるほか、プロジェクト遂行のために従業員ボランティアが活動に従事できるよう社を挙げて取り組んでいます。

活動プロジェクトには以下のような例があります。

- 東京では、アッヴィ合同会社（本社：東京都港区、社長 ： ジェームス・フェリシアーノ）の従業員ボランティア延べ48名が、6月10日(水)～12日(金)の3日間にわたって東京都内の児童養護施設を訪問し、各養護施設に暮らす小学生61名とともに、アッヴィ財団のSEEK［Science Engineering Exploration Knowledge（科学・工学・探求・知識）］科学教室に参加しました。SEEK科学教室は、主に7歳から11歳の生徒を対象に、科学的発見のプロセスを体験してもらうことを目的とする、新しいグローバル科学教育プログラムです。子どもたちは、ボランティアの手助けのもとで、「ミステリーボックス」実験に参加し、観察と推論、コミュニケーション、チームワークを駆使しながら、ミステリーボックスに何が入っているかを予測しました。また、アッヴィ合同会社で働く科学者が、自分が小さいころ科学に興味を持ったきっかけや、研究内容をわかりやすく子どもたちに紹介し、夢と情熱を持ち続けることの大切さを伝えました。

（写真：アッヴィSEEK科学教室に参加する従業員ボランティアと児童養護施設の子どもたち）

参加したアッヴィの従業員ボランティアの声を一部紹介します。

「自分が社会、地域の一員であることを改めて感じた。」

「子どもたちはまだまだ無垢なので、もっともっと希望を持たせてあげたい。」

「私たちも元気をもらいました。今後も是非参加させて頂きたい。」

- アッヴィが本社を置くノースシカゴでは、Neal Math & Science AcademyとNorth Chicago Community High Schoolの生徒に、新しいコンピュータ、机、書籍などを備えた新設の図書館が寄贈されました。また、別の2校ではボランティアが教室、カフェテリア、体育館などの施設の塗装を行いました。さらに、地域初の専用施設となる早期学習センターで、学齢に応じた遊び場を整備し、18の教室を増設し、備品を準備しました。このセンターは、今年の秋に開設が予定されており、地域で最も高リスク下にある幼稚園児や入園前の子供が全日利用できる施設となる予定です。

- カリフォルニア州レッドウッドシティおよびマサチューセッツ州ウースターでは、来年度の新学期に向け、アッヴィのボランティアが2つの学校図書館を修繕するほか、その他の学校施設の塗装や準備を行いました。
- ハンガリーのブダペストでは、地域の病院で長期間治療を受けている4歳から12歳の子供たちに、ボランティアが読み聞かせをしました。別のグループは、地域の高等学校で建物の修繕や情報システムの更新を行ったり、禁煙、C型肝炎ウイルス（HCV）感染予防、健康的な生活スタイルに関する保健の授業や講演を実施したりしました。

ゴンザレスはまた、次のように述べています。「教育を改善することによって、すべての子供たち、特に十分なサービスを享受できていないコミュニティの子供たちが、自分の能力を発揮するチャンスを手にすることができます。アッヴィはこのような活動に注力しており、Week of Possibilitiesでのボランティア活動は、現在の子供たち、そしてコミュニティの未来に持続的な影響を及ぼすものと確信しています。」

アッヴィについて

アッヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。専門知識や献身的な社員・イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、世界で最も複雑かつ深刻な疾患領域における先進的な治療薬を開発・提供することをミッションに掲げています。アッヴィは、100%子会社のファーマサイクリックス社を含めて世界で28,000人以上を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。当社の概要や人材・製品群・コミットメントに関する詳細はwww.abbvie.com をご覧ください。よろしければTwitterアカウント@AbbVieもフォローください。また、人材情報はFacebookやLinkedInページをご参照ください。

日本においては、アッヴィ合同会社の約800人の社員が、医療用医薬品の研究・開発や販売に従事しています。自己免疫疾患・新生児・肝疾患・ニューロサイエンスの各領域を中心に、患者さんの生活に大きく貢献できることを願っています。詳しくは、www.abbvie.co.jpをご覧ください。

アッヴィ財団について

アッヴィ財団は、米国における501(c)(3)団体に該当する非営利団体です。強固なコミュニティ、持続可能な医療システム、効果的な教育プログラムの構築を通して、十分なサービスを享受できていない世界の人々の生活に大きな影響を及ぼす活動を行っています。

[1] 学力差とは、ある集団の生徒の成績が他の集団の生徒よりも優れており、2集団の間の平均スコアの差が統計学的に有意な（すなわち、誤差の範囲よりも大きい）ことを指します。出典：National Center for Education Statistics、https://nces.ed.gov/nationsreportcard/studies/gaps/